

第54期 報告書

令和2年4月1日～令和3年3月31日



ホテル立山

立山貫光ターミナル株式会社

事業概況 (令和2年4月1日～令和3年3月31日)

令和2年度の事業概況についてご報告申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、当期のわが国経済は、非常に困難な状況に直面いたしました。経済活動は、徐々に持ち直しの動きがみられるものの、感染拡大防止のために人為的な抑制を余儀なくされ、これまでにない急激かつ大幅な景気後退を伴う厳しい状況となりました。

観光業界におきましても、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大に伴い、感染予防のため、インバウンドが消失し、国内でも不要不急の外出・移動の自粛やイベント開催の制限等により、観光需要は大きく減少し、深刻な事態に陥りました。

このような中、当期の立山黒部アルペンルートは、春の「雪の大谷ウォークイベント」を中止した上で、昨年同様、4月10日には富山側の立山駅～弥陀ヶ原間が部分開通し、4月15日には立山駅～信濃大町駅間が全線開通いたしました。しかしながら4月16日には政府による全国を対象とする緊急事態宣言が発令されたことを受けて、4月18日から6月18日までの2か月間、立山駅～扇沢間の営業を休止するという、未曾有の事態となりました。

立山黒部アルペンルートの全線開通に合わせ、4月15日から営業再開しておりました室堂ターミナルに於ける宿泊、飲食及び物品販売営業も同様に、4月18日から営業を休止いたしました。人の移動・往来が段階的に緩和されました6月19日から、室堂の飲食及び物品販売営業を再開し、ホテル立山宿泊営業は、宿泊予約受付再開後の7月1日から営業を再開いたしました。営業再開後は、「立山黒部アルペンルート安全・安心ガイドライン」に沿って、館内の清掃、消毒などの衛生管理を徹底するとともに宿泊者数等を制限するなど、新型コロナウイルスの感染拡大防止に努めながら、11月30日まで営業いたしました。

弥陀ヶ原ホテルは、部分開通に合わせ4月10日から営業再開しておりましたが、4月16日から営業を休止し、宿泊予約状況等が厳しい見通しとなり、令和2年度の営業を休止いたしました。

宇奈月国際ホテルも、全国を対象とする緊急事態宣言が発令されたことを受け、4月20日から営業を休止し、繁忙期間の宿泊予約状況が厳しい見通しとなり、令和2年度の営業を休止いたしました。

なお、職制機構の改正に伴い、当社に立山駅から黒部湖駅までの物品販売事業を統合し、8月1日から、ホテル立山売店部 立山駅店（旧立山構内営業）と、黒部平店（旧黒部平構内営業）を8月1日から引き継ぎ、11月30日まで営業いたしました。

美女平店（旧美女平構内営業）と大観峰店（旧大観峰構内営業）及びレストラン黒部平は、令和2年度の営業を休止いたしました。

営業の推移を概観いたしますと、ホテル立山につきまして、新型コロナウイルス感染防止対策として、使用客室数を減じて営業しましたが、7月22日からの政府によるGo Toトラベルキャンペーンの効果もあり、徐々に回復傾向があらわれ、10月1日からは東京都に居住する方の旅行を対象としてGo Toトラベルキャンペーンが拡充され、関東および関西圏からの個人客が戻り始めましたが、春の2か月間に及ぶ休業等が大きく影響し、前年を大きく下回る結果となりました。

その結果、ホテル立山の宿泊人員は、7,220人（前期比23%）となり、宿泊収入は前期比2

3%、食堂収入は前期比15%、物品販売収入は前期比33%となり、営業収入合計では前期比23%となりました。

次に営業費につきましては、経営全般にわたる業務の効率化に努め、勤務体制の合理化や季節雇用の抑制により人件費が減少し、営業費の誘客手数料、水光熱費および修繕費の節減により物件経費並びに仕入費が減少したため、営業費合計は14億56百万円（前期比53%）となりました。これに、雇用調整助成金等の営業外収益45百万円、営業外費用7百万円を加減した当期の経常損失は8億9百万円となりました。さらに、特別損益、法人税等および法人税等調整額を加減した結果、当期純損失は9億9百万円を計上することとなりました。

部門別営業成績は次のとおりであります。

ホテル立山宿泊営業成績表（令和2年度）

項 目	実 績	前期比%
営業日数	156日	68
宿泊人員	7,220人	23
一日平均宿泊者数	47人	35
営業収入	175,167千円	23
宿泊収入	174,287千円	23
雑収入	879千円	25
一日平均収入	1,122千円	35
客室数	81室	100
延使用客室数	3,464室	25
客室回転率	28%	37
宿泊定員	260人	100
宿泊効率	18%	35

（備考）営業期間(当期)：令和2年4月15日～令和2年4月17日
 令和2年7月1日～令和2年11月30日(宿泊日数154日)
 営業期間(前期)：平成31年4月15日～令和元年11月30日(宿泊日数229日)

食堂飲食及び物品販売業営業成績表（令和2年度）

項 目	実 績	前期比%
営業日数	168日	73
食堂到達人員	151,764人	21
営業収入	257,957千円	25
食堂収入	57,534千円	18
喫茶収入	9,482千円	8
売店収入	187,525千円	33
雑収入	3,414千円	46
一日平均収入	1,535千円	35
営業収入/食堂到達人員	1,700円	120

（備考）営業期間(当期)：令和2年4月15日～令和2年4月17日（食堂部、売店部 室堂店）
 令和2年6月19日～令和2年11月30日（食堂部、売店部 室堂店）
 令和2年8月1日～令和2年11月30日（売店部 立山駅店、黒部平店）
 営業期間(前期)：平成31年4月15日～令和元年11月30日
 （美女平店、大観峰店、レストラン黒部平は令和2年度営業休止）

弥陀ヶ原ホテル営業成績表（令和2年度）

項 目	実 績	前期比%
営業日数	6 日	3
宿泊人員	26 人	0
一日平均宿泊者数	5 人	6
営業収入	508 千円	0
宿泊収入	377 千円	0
雑収入	0 千円	0
食堂収入	52 千円	0
売店収入	78 千円	0
一日平均収入	84 千円	4
客室数	52 室	100
延使用客室数	12 室	0
客室回転率	5 %	7
宿泊定員	176 人	100
宿泊効率	3 %	7

（備考）営業期間(当期)：令和2年4月10日～令和2年4月15日(宿泊日数 5日)

営業期間(前期)：平成31年4月10日～令和元年11月4日(宿泊日数208日)

宇奈月国際ホテル営業成績表（令和2年度）

項 目	実 績	前年比%
営業日数	19 日	5
宿泊人員	10 人	0
一日平均宿泊者数	1 人	2
営業収入	373 千円	0
宿泊収入	103 千円	0
追加飲食収入	13 千円	0
施設利用収入	0 千円	0
日帰り収入	18 千円	0
売店収入	156 千円	1
雑収入	81 千円	4
一日平均収入	19 千円	2
客室数	5 室	8
延使用客室数	8 室	0
客室回転率	9 %	30
宿泊定員	304 人	100
宿泊効率	0 %	1

（備考）営業期間(当期)：令和2年4月1日～令和2年4月19日(宿泊日数 18日)

営業期間(前期)：平成31年4月1日～令和2年3月31日(宿泊日数364日)

財産および損益の状況の推移

区 分	第51期 (平成29年度)	第52期 (平成30年度)	第53期 (令和元年度)	第54期(当期) (令和2年度)
売上高(千円)	2,779,295	2,921,182	2,629,582	609,710
当期純利益(損失)(千円)	1,131	△110,021	△96,595	△909,248
1株当たり当期純利益(損失)	1円26銭	△122円25銭	△107円33銭	△1,010円28銭
総 資 産(千円)	1,993,223	1,941,253	2,016,108	1,857,965

令和3年度の取り組み

現在、日本国内においては、新型コロナウイルス感染拡大の防止と社会経済活動の維持との両立を持続的に図るため、地域の感染状況に応じて、集中的な対策により急速なまん延を防ぐ感染防止策として、当該地域での不要不急の外出の自粛や催物（イベント等）の開催制限などの徹底した措置が講じられています。

国際的な人の移動が制限されているため、インバウンド需要は失われたままであり、国内におきましても旅行のキャンセル、出控えなどの影響を受け、観光需要は大きく減少し、全国の旅行業、宿泊業はもとより、地域の交通や飲食業、物品販売業など多くの産業に深刻な影響が生じています。

当面、大変厳しい経営環境が続くことが予想されますが、終息後を見据え効率的な事業運営に取り組み、経営基盤の安定を図ってまいります。

1. 効率的な運営

この非常時に対し、新型コロナウイルス感染症の影響による創業以来最大の危機を克服するため、昨年7月に当社は、社長を本部長とし、経営改革会議を設置し、「感動を快適に」「変革への挑戦」「回復と蓄積」という三つのキーワードを基本方針として、中期経営計画を策定いたしました。

現状の経営環境を踏まえ、スリムな運営体制と適正な集客モデルを目指すべきであると考え、まずは、大量集客を前提とした要員確保を見直し、スリムな運営体制を再構築いたしました。さらには安定的な収益体質に変革するため、コストの削減等を果敢に実施し、損益分岐点の引き下げに取り組んでまいります。

この度当社は、営業の一切を担っておりました、宇奈月国際ホテル並びに弥陀ヶ原ホテルに関し、両館を所有する立山黒部貫光株式会社との経営委託契約を、いずれも令和3年3月31日をもって解消いたしました。

これまで、積極的な誘客活動と効率的運用に努めてまいりましたが、今般の新型コロナウイルスの流行を受け、昨年4月以降、両館とも営業を休止しておりました。その後も感染流行の影響が長引く中、営業再開のめどがたらず、当社経営に与える影響を回避することが喫緊の課題となり、両ホテルの経営から撤退することを決断いたしました。

当社といたしましては、今後は、原点に立ち返り、室堂ターミナルに於ける宿泊、飲食事業及び立山黒部アルペンルートに於ける物品販売事業に専念することとし、業績の回復を目指してまいります。

令和3年度立山黒部アルペンルートの営業にあたりましては、富山県内での観光の魅力を再発見し、県民の拠りどころである立山黒部への誘いを活発化させるため、「立山」と「黒部ダム」を観光できる乗車券や、雪の大谷や登山、トレッキングを楽しめる日帰りツアー商品などを企画・販売するため、昨年に引き続き、富山県、関係市町村、関係機関のご協力をいただきながら、誘客に努めてまいります。

2 宿泊・食品の安全確保と自然保護

お客様に安心、信頼してご利用いただけるよう、施設や食品の安全には、今後とも万全を尽くしてまいります。施設の日常点検と整備、そして食品の衛生管理と品質管理を徹底してまいります。

今般の新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、お客様用のアルコール消毒液の設置や、館内の消毒清掃および換気の強化、従業員のマスク着用と検温・手指消毒の徹底などの対策を昨年に引き続き講じてまいります。

また、環境に配慮した施設設備の維持更新、ごみ処理対策の徹底等、引き続き、立山黒部の大自然を守り伝えるための努力を続けてまいります。

昭和46年6月1日の全線開業以来、立山黒部アルペンルートは、おかげさまで本年、全線開業50周年を迎えます。これからも佐伯宗義初代社長を始めとする幾多の先人の方々の、アルペンルート創業にかけた理想と理念を受け継ぎ、次の50年も多くの皆様に喜ばれますよう、積極的な営業活動と、安全・安心な立山黒部アルペンルートの構築と、自然環境保全に役職員一同全力を傾注してまいります。

財務諸表

貸借対照表の要旨

(令和3年3月31日現在)

(単位：百万円)

科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	528	流動負債	266
現金及び預金	413	買掛金	2
売掛金	0	短期借入金	42
未収金	3	関係会社短期借入金	97
未収法人税等	0	リース債務	5
未収消費税等	18	未払金	90
商品	7	未払費用	1
貯蔵品	74	未払法人税等	6
前払金	6	預り金	11
前払費用	0	賞与引当金	9
その他	3		
固定資産	1,329	固定負債	1,505
有形固定資産	1,179	長期借入金	155
建物	577	関係会社長期借入金	802
建物附属設備	331	リース債務	17
構築物	65	退職給付引当金	525
機械及び装置	5	長期未払金	4
車両及び運搬具	0	負債合計	1,771
器具及び備品	51	(純資産の部)	
土地	119	株主資本	93
建設仮勘定	26	資本金	900
無形固定資産	18	利益剰余金	△806
ソフトウェア	17	その他利益剰余金	△806
電話加入権	1	繰越利益剰余金	△806
投資その他の資産	132	評価・換算差額等	△7
投資有価証券	65	その他有価証券評価差額金	△7
関係会社株式	35	純資産合計	86
その他	31	負債・純資産合計	1,857
資産合計	1,857		

損益計算書の要旨

(令和2年4月1日～令和3年3月31日) (単位：百万円)

科目	金額
売上高	609
売上原価	173
売上総利益	436
販売費及び一般管理費	1,283
営業損失	847
営業外収益	45
営業外費用	7
経常損失	809
特別利益	0
特別損失	1
税引前当期純損失	810
法人税、住民税及び事業税	1
法人税等調整額	97
当期純損失	909

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。また、消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

株主資本等変動計算書

(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本				株主資本合計	評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	純資産合計
	資本金	利益剰余金		株主資本合計			
		その他利益剰余金	利益剰余金合計				
当期首残高	900	103	103	1,003	△11	991	
当期変動額							
当期純損失		△909	△909	△909		△909	
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					3	3	
当期変動額合計	-	△909	△909	△909	3	△905	
当期末残高	900	△806	△806	93	△7	86	

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社概要／役員 (令和3年6月28日現在)

<ul style="list-style-type: none"> ●設立年月日 昭和42年12月24日 ●資本金 9億円 ●発行済株式総数 900,000株 ●株主数 2名 立山黒部貫光株式会社 富山地方鉄道株式会社 	<ul style="list-style-type: none"> ●役員 代表取締役社長 専務取締役 常務取締役 常務取締役 常務取締役 取締役 取締役 取締役 取締役 取締役 取締役 監査役 監査役 	<ul style="list-style-type: none"> 見角 要 中川 修 高江 均 中村直幸 秋元一秀 辻川 徹 大谷真一 川高健裕 杉林義宏 川嶋芳明 新庄一洋
--	---	--

アルペンルートと会社のあゆみ

昭和27年 4月 1日	立山開発鉄道株式会社（TKR）設立（資本金2,500万円）
29年 8月13日	鋼索線（千寿ヶ原～美女平）営業開始
30年 7月 1日	高原バス（美女平～弘法）営業開始
31年10月 4日	弥陀ヶ原ホテル営業開始（TKR）
35年 5月 8日	立山黒部有峰開発株式会社（TKA）設立
39年 6月20日	高原バス全線（美女平～室堂）営業開始
8月 1日	関電トンネルトロリーバス（扇沢～黒部ダム）営業開始
11月 7日	TKA第34回取締役会で新会社（TKK）設立を決議
12月25日	立山黒部貫光株式会社（TKK）設立（資本金4億円）
42年12月24日	立山貫光ターミナル株式会社（TKT）設立（資本金3,000万円）
44年 5月 8日	室堂ターミナルビル建設工事着工
7月20日	黒部ケーブルカー（黒部湖～黒部平）営業開始
12月 9日	立山トンネル貫通
45年 7月 1日	富山～信濃大町間を「立山黒部アルペンルート」と命名
7月25日	立山ロープウェイ（黒部平～大観峰）営業開始
12月15日	一般自動車道 桂台～美女平間供用開始（TKA）
46年 4月25日	立山トンネルバス（室堂～大観峰）営業開始
6月 1日	立山黒部アルペンルート全線開業
47年 8月28日	室堂ターミナルビル全館完成
9月 1日	ホテル立山営業開始
54年10月 1日	TKKとTKAが合併
61年 4月11日	宇奈月国際ホテル新築工事着工
62年 9月21日	宇奈月国際ホテル営業開始
平成 2年10月 1日	立山黒部サービス株式会社（TKS）設立（資本金1億円）
3年10月11日	弥陀ヶ原ホテル改築のため閉館
6年 7月12日	弥陀ヶ原ホテル改築営業開始
12年 4月 1日	弥陀ヶ原ホテルTKRから経営受託
17年10月 1日	TKKとTKRが合併 (存続会社 立山黒部貫光株式会社)
21年 4月 1日	宇奈月国際ホテルTKKから経営受託
令和 3年 3月31日	宇奈月国際ホテル、弥陀ヶ原ホテル TKKとの経営委託契約を解消

ご案内



ホテル立山

〒930-1414 富山県中新川郡立山町芦峯寺室堂

☎ (076) 463-3345 FAX (076) 463-3348

<https://h-tateyama.alpen-route.co.jp/>

(編集・発行) 立山貫光ターミナル株式会社

〒930-8558 富山県富山市桜町1-1-36

☎ (076) 441-3331 (代表) FAX (076) 433-1185